

# 大好き! 幾春別川

DAISUKI! IKUSYUNBETSU RIVER

発行元: 幾春別川ニュース編集委員会  
編集委員長 嵯峨 義輝

〒068-0007  
岩見沢市7条東9丁目 石狩川開発建設部岩見沢河川事務所内編集委員会事務局  
TEL: 0126-23-9555 FAX: 0126-25-1697



桂沢湖で冬を遊びまくり!

▲ワカサギ釣りを大いに楽しんだ参加者のみなさん。竿を持ち上げたお母さんを尊敬のまなざし?で見つめる子どもたちの表情にご注目!

▼北村の雪中植林。子どもたちも参加し、今年も多くの木を植えました

## 冬を遊ぼう in 三笠 & 岩見沢市北村

厳しくて寒い季節だからこそ、思いきり外で「冬を楽しもう!」と行われている2つのイベント。参加者は防寒具にしっかりと身を包み、冬の「醍醐味」を満喫しました。来年はぜひ一緒に参加しませんか!



山の無い北村の森づくり

「旧美唄川雪中植林」  
旧美唄川の河川敷で、2月10日(日)に開催された岩見沢市北村地区の雪中植林(※左の写真)。NPO法人山のない北村の輝きを中心とした実行委員会の主催で、今年で6回目。リピーターが多く、今年も250名が参加! 年々盛り上がりを見せているイベントです。午前9時半に北村環境改善センターに集合し、カミネッコン(段ボールで出来た植林用のポット)の考案者である東三郎先生(北大名誉教授)などの指導のもと、制作に取り掛かりました。その後、バスで農産廃棄物処理施設周辺の河川敷地に移動。それぞれ作ったカミネッコンを地面に置き、仕上げに雪のふとんをかぶせて植林は終了です。  
植林のあとは、子どもたちはスノーモービルやタイヤすべりなどの冬遊びを満喫! 雪原に子どもたちの歓声が広がりました。そして再びセンターに移動し、地域の生産者が作ったお米で炊いたおにぎりと、温かい豚汁に舌鼓を打って閉会となりました。  
「山のない北村」は少しずつ皆さんの手によって、「美しい森のある北村」に変化しつつあります(次ページで東先生の講演会の内容を紹介します)。

三笠で活動を行っている悠遊桂沢倶楽部が2月9日(土)に主催した「桂沢悠遊冬遊び」(※上の写真)。桂沢湖を舞台にし、冬ならではのワカサギ釣りやイグルー体験、ツリーイング(ロープ木登り)などをして、冬の一日を過ごしました。市内外から参加した親子47名は、気持ち良く晴れ渡った冬の青空の下、思い切り冬遊びに興じていました(詳細は次ページで紹介)。

### カワセミ「夏鳥」・アカショウビン「夏鳥」(カワセミ科)



アカショウビン

カワセミは幾春別川や近郊の沼などで良く観察できますが、少し減ってきてたように思われます。主食の魚を捕るために勢いをつけて水中に飛び込みます。見ていると、さほど確率がよくないようで、何度もチャレンジするといった場面を度々見ました。また、少し濁った水でも飛び込んで魚を捕食している場面も見かけますが、我々人間には見えなくても野生の本能?とでも言っのか、凄さを感じます。  
アカショウビンは、近年すっかり観察できなくなりました。私が知っている空知管内の二カ所とも数年以内に駄目になる傾向にあります。人的ではなく、自然が自然環境を変えていくと言ったところでしょつか、別な場所へ移動すると思います。朝霧の中、鳴き声を聴くと、キョロキョロと朝霧と水面に消えるような鳴き声はチョットだけロマンチックな気分にしてくれます。

### 流域の鳥たち vol.4

写真家 若林 信男  
(わかばやし のぶお)  
岩見沢市在住



カワセミ

ワカサギ釣りやイグルー体験!

第2回 桂沢悠遊冬遊び

当初 参加者は35名の募集でしたが最終的に47名となり、たいへん盛り上がりました。地元三笠市よりも岩見沢市からの参加者が多く、札幌市や当別町からも参加いただきました。

朝10時に桂沢ホテル前に集合。全体の進行を説明したあと、本日のメインプログラムであるワカサギ釣りの会場へ移動。参加者は事前にあげておいた20ヶ所の穴へ散らばりました。糸を垂らしてすぐに釣れた人、しばらくして歓声を上げる人、じっと竿の先をにらんでいる人など様々。中には80匹以上

釣った人も。予定の時間を30分もオーバーするほどの盛り上がり。昼食は観光ホテルで、おにぎりと豚汁。そしてワカサギのてんぷら。釣果に話が盛り上がりながら、美味しくいただきました。

午後は、作製キットを使ったイグルー作りを再度挑戦。スタッフと参加者が協力し、キットを使ったイグルーはきれいな円形ドームとなりました。中には見ただけ以上に広い空間。完成後、中に何人入れるか実験すると……。17名のスタッフも加わり、小さい子供から



▲イグルーのなかではしゃぐ子どもたち



作成キットを使ったイグルーづくり

から大人まで、何と51名も! 今年は桂沢ダム51周年だから縁起が良い!と喜ぶスタッフ。宝さがしは雪崩捜索のアイテム、ビーコンとソンド棒を使用。雪の中に埋めた宝物(お菓子を入れたザック)を探そうというゲームです。ほとんどの参加者はビーコンを初めて使ったようで面白かった様子。早くて2分、遅くても8分で探し当てていました。そのほか、隠しメニューとしてツリーイング体験(ロープ木登り)とアイススク

この後の反省会では冬をきめ、桂沢湖の自然体験の楽しさを、もっと多くの人に今後も伝えたいという意見でまとまりました。

(文責 駒田 賢)

森をつくり、水を確保することは、子どもや孫への贈り物となるのです。

緑の回廊をつなげる上流と下流

第6回 旧美唄川雪中植林



▲旧美唄川の左岸地域を植林中! 桂沢湖から北村まで、緑の回廊をつなげることを目標に...

僕たちも、木と一緒に大きくなっていくよ!



参加者の声

- 水資源問題の大切さを知りました。もっと宣伝すべきかと思えます (札幌市 H・K、男性、会社員)
- 今まで水のことを意識したことがありませんでしたが、これからは大切にしていきたいです (岩見沢市 Y・S、女性、主婦)
- 植林活動は地球環境に貢献することだと認識いたしました。これからも植林活動を続けていくことを誓います! (札幌市 O・G、男性、会社員)



「雪中植林」を考案した北大名誉教授 東 三郎先生

一見同じような土地でも、火山地帯や沖積地帯など、地盤が違ってくる状態にするには、森が必要です。山が乾燥していると雨は表面を流れていきます。スポンジを使って実験すると分かりますが「乾燥した地面」と「水が潤った地面」では雨の流れ方が違います。スポンジのような「乾燥した地面」は、水は表面を流れて地中に染みみていきません。反対に「水が潤った地面」では地中に深く染



平成16年に植えられたヤナギの木。すくすくと生育しています!

米1kgを作るときに使う水の量、牛肉1kgを作るのに使う水の量。あらゆるものの生産に水が使われています。それなのに、世界では水が足りないと言われている。世代間交流にもなることではないでしょうか。

人間のわがままが現在の水不足の状態を引き起こしているのです。水不足を解消するためには森が必要で、21世紀は人間が森にお返しする時代なのです。

カミネツコン作りを冬の楽しみとしてぜひご利用下さい。お子さんやお孫さん

サケの飼育日記

11月から飼育を始め、4月に放流を迎えるサケの飼育状況について、2つの職場を訪問してきました。

自家製ストローでフンを吸い上げる...

飼育歴6年の岩見沢平安閣の星川 巧さん。「毎年300粒の卵を預かってはいますが、9割はかえりません。エサをやるようになってからは、汚れた水を換えるのが大変ですが、少しずつ大きくなっていくサケを見るのは、とても楽しいですよ。また幾春別川に戻ってきたところを見たことがないので、今年はぜひ見に行きたいですね」と答えてくれました。「毎年200粒の卵を受け入れています。うちでも9割は化させることができますよ」と大和簡易郵便局長、須古 哲也さん。飼育歴13年の大ベテランです。

気を付けている点は「サケがあまり大きくなりすぎると、川に放流されてから長生きしにくいようです。須古さんならではの飼育方法をお聞きました。「自家製のストローでフンを吸い上げるぞくんです」と実演して見せてくれました(右の下の写真)。長年の飼育歴が成せる熟練の技です!



取材日、不慮の事故(?)で水槽が凍るといふハプニングが...



大和簡易郵便局長の須古 哲也さん



自家製ストローで水槽の中のフンを吸い上げるぞくんです。最後まで吸い上げずにはなく、途中で吐き出します。念のために.....!

場所は、新篠津村に行く途中にある「たつぷ大橋」の手前、幾春別川と旧美唄川が合流する地点にあります。この合流地点のある場所は、洪水を防ぐための幾春別川新水路事業によって完成されたものです。



北村地区河川防災ステーション

石狩川

幾春別川

旧美唄川

建物の完成予想図



建物の中には、水害が発生したときに使用する一輪車(右の写真)などが保管されます



周辺の完成予想図



フムフム...

沙智子の感想

今を生きる私たちにとって、危険とは...? 自然災害が挙げられますが、どこか遠い出来事のように感じます。それは気付かない、知らないところで支えてくれる存在があるからではないでしょうか。今回訪れたのは、非常時に困る状況の程度を減らしてくれる建物です。私たちが直接使わなくてもその後ろにいる人の助けとなったり、私たちの子供や孫がお世話になることも考えられます。災害は私たちが忘れてしまった、自然の中にいることを感じるひとつのきっかけになるでしょう。建築中の真っ只中に入った体験は、建築士を目指していた小さい頃を思い出すようで、本当にわくわくしました。熱心に携わる方々に感謝です。



(上)「雁数え道」は世界初! 宮島沼の会が認定するマガンカウムの認証制度 (下)マガレンジャー(子供向け体験学習講座)

http://www.city.bibai.hokkaido.jp/miyajimanuma

「宮島沼の自然を守り、人と自然が仲良く暮らせる世界を作る、それがマガレンジャー最大の使命である!」 そんな合い言葉で始まった子供向け体験学習講座も、宮島沼の会の恒例行事です。

宮島沼の豊かな自然を次世代に確実に引き継ぐため、日々活動を行っています。(文責/宮島沼水鳥・湿地センター 岡野香子)

沙智子の体験レポート



幾春別川探検隊!

今回は、現在工事中の岩見沢市北村地区「河川防災ステーション」をご紹介します! ■北海道教育大学岩見沢校 スポーツ教育課程 アウトドアライフ専攻2年、花田沙智子(はなだ さちこ)がレポーターとして、幾春別川流域の川と関りの深い施設をご紹介します!

今回の家・内・人

国土交通省 北海道開発局 石狩川開発建設部 岩見沢河川事務所 計画課 計画係長 もろはし まさゆき 諸橋 雅幸さん



幾春別川の下流域である北村や近隣の市町村を洪水から守るため、日々頑張っている職務にまい進しています!



身振りを交えて熱心に説明して下さった諸橋さん!

わたしたちの活動紹介

Part.9 川を中心とした活動を展開する仲間たちをご紹介します。

美唄市 宮島沼の会



観察小屋「わらの家」造り

宮島沼の会は、楽しみながら宮島沼のことを学び、宮島沼の保全とワイルドネス(賢明な利用)を進める市民団体です。凍っていた宮島沼がようやく融けるころ、本州で越冬していたマガンは北帰行の途中、宮島沼に立ち寄り、この時期恒例なのが「マガンを数える会」。午後の早い時間に沼周辺のゴミ拾いを済ませ、黄昏時に沼に帰ってくるマガンのカウント調査を行います。

その他、渡り鳥・農業・地域の自然や文化など宮島沼に関わる様々なテーマについて学び考え伝えるための活動(会報「宮島沼」の発行、環境学習会の開催)、小型哺乳類や野鳥・植物・魚類などの調査活動、環境整備活動やマナー啓発活動など多彩です。宮島沼の豊かな自然を次世代に確実に引き継ぐため、日々活動を行っています。

幾春別川流域の風土資産

パート3

沼のある風景

沼にまつわる物語



※幾春別川流域には、先人たちが培ってきた貴重な風土資産が数多く存在しています。本紙ではそのような風土資産を取り上げ、連載で紹介しています。

一、宮島沼(美幌市)

その昔は、単に「大沼」と呼ばれていました。そのあとの明治24年、宮島佐次郎が新潟県から入植し、宮島沼南岸から種...

二、雁沼沼(岩見沢市北村)

代表的な水郷の一つです。昭和16年、石狩川の切替工事によって生まれました。四季を通じて、コイやフナ、ナマズ、ワカサギが釣れることから、有名な釣り場として広く知られています。

三、月ヶ湖(自形町)

この一帯は昭和50年、「学術自然保護地区」として指定されました。石狩低地帯に残されたミズノケやワタスゲ、ツルコケモモ、エソカンソウなどの...

四、鯉沼(岩見沢市北村)

北村の開祖である、北村重の故郷、山梨県中巨摩郡鏡中条村の一字「鏡」を取った、景勝地です。

五、鏡沼(岩見沢市北村)

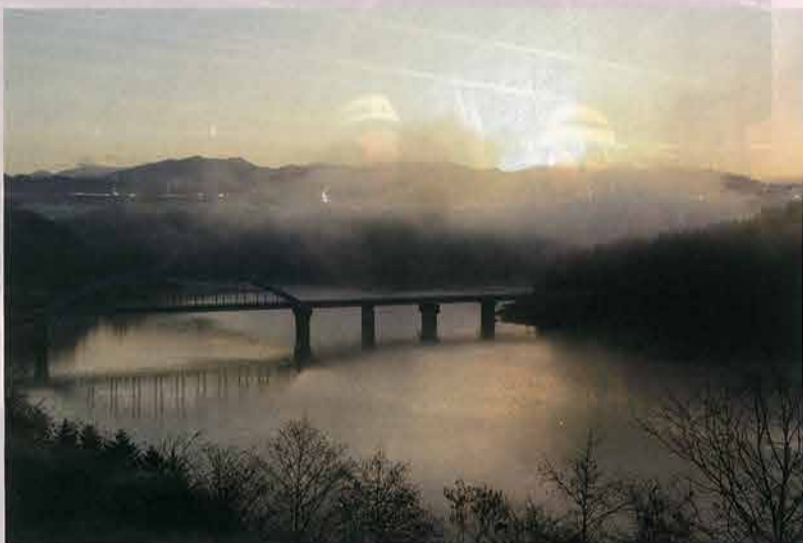
形もほぼ円く、当時、周囲は密林で、さながら鏡のようでもありました。周囲は干置も良く、現在でも自然の巨木が湖面に影を落とす...

六、鯉沼(岩見沢市北村)

夫を持つ女性が身を投げた時期に、必ず2匹の鯉が釣れるといふ伝説があります。昭和49年、国から、周辺の樹林地帯45ヘクタールが「環境緑化保護地域」として指定を受けました。

■出典『石狩川・幾春別川風土資産ガイドブック』

水辺の風景



「双岳橋から見た初秋の桂沢湖」 札幌市 半澤信夫氏

「シャッターチャンスを狙うべく、早朝から現地に入り、朝焼けの景色を撮影しました。幻想的な、とても美しい景色でした」

写真募集

あなたの好きな水辺の風景を写して、本紙事務局までお送りください!

応募内容

プリント、デジタル、ポジフィルムなど形態は自由です。写真のほかに、川への「想い」を100文字程度にまとめて、下記のおたより欄に記載してある住所までお送りください。本誌「大好き! 幾春別川」に掲載させていただきます。※1人何点でも応募できます。また、写真の返却はいたしませんので、あらかじめご了承ください。

おたよりお待ちしております!

本紙は、楽しい紙面を作るために皆さまからのご意見や感想、また、今後取り上げてほしい記事の内容などについて、おたよりを募集しております。下記のおたより先までお送りください。

★送付先★

〒068-0007 岩見沢市7条東9丁目 石狩川開発建設部 岩見沢河川事務所内 「大好き! 幾春別川」編集委員会事務局 ※ご質問の場合も、郵送またはファックス (0126)-25-1697へお願いします。

年間行事予定

サケの稚魚放流壮行会

<岩見沢市の開催日>: 4月11日 開催場所: 岩見沢市「川西大橋下流左岸」 主催: 幾春別川をよくする市民の会 <三笠市の開催日>: 4月9日 開催場所: 三笠市・水辺の楽校「であい」他 主催: 三笠市教育委員会

川の日ワークショップ

開催日: 6月14、15日 開催予定場所: 長沼町民会館

主催: 第7回 北海道・川の日ワークショップ inながめ実行委員会

第16回 幾春別川カップin三笠 ~カヌー競技

開催日: 6月21、22日 開催場所: 三笠市西桂沢 主催: 三笠カヌークラブ

フラワーライン

開催日: 6月下旬 開催場所: 狩野橋左岸下流付近 主催: 幾春別川をよくする市民の会

幾春別川 緑の回廊づくり植栽事業

開催日: 6月上旬 開催場所: 萱野橋付近(三笠市) 主催: NPO法人 三笠森水遊学舎



岩見沢市立北村中央保育所 保育士 水無里美

北村の自然が育む、心優しい子どもたち

自然に囲まれた北村は、伸び伸びと保育ができます。園児にとっても保育士にとっても、とても良い環境です。パワフルで元気、そして心優しい素直な心を持っている園児の姿を見て、これも北村の美しい自然があるからだと思います。今の子どもたちが大人になったとき、きれいな川、そしていつまでも豊かな自然でありますように、日々願っています。

川とわたしの思い出



北村の子どもたちは女の子でも平気でカエリにさわられるのです!